

森のキャンパスから

第2号

発行日 2013年10月15日

森の中でビジネスパーソンがチャレンジ&リフレッシュ

夏シーズンの終盤、企業経営に携わる女性グループ(FWN: Frontier Women's Network)がメンバーの関係を深め、リフレッシュする1泊2日のキャンプに来られました。企画をされた大野智代会長に「ビジネスパーソンから見た千刈キャンプの魅力と可能性」について寄稿していただきました。

この通信は、千刈キャンプとこの森を愛する皆さんとを結ぶ接点となることを願って生まれました。主に次のような方々へお届けしています。

- ご利用団体
- 関西学院の在学生や保護者
- 千刈キャンプのサポーター
- 関西学院の各部課
- 千刈キャンプのスタッフと名刺交換させて頂いた方々

主な目次:

新プログラム「フロンティアキャンプ」	2
千刈キャンプの草木と遊ぶ	2
リーダーズボイス	3
なつの千刈ダイアリー	3
お知らせ	4

「二人やったらできるってことは、もっと、みんなこっちに固まったらええねんやん」

「二人羽織みたいにしたらええんちゃう？」
「やー、これは無理やわ〜。わははは！！！」

あちこちからユニークなアイデアが飛び出し、最後に大きな笑い声がこだまする。

さすが経営者というか、なにわのおばちゃん。職員のもりもっちゃん(森本さん)の「うるっさいなあー」の声にまた大笑い。

私が所属している女性経営者の会で9月21～22日、利用させてもらった。この会は、大阪の中小企業の女性経営者などがビジネスを学んだり交流したりする会。

今回、キャンプをしようと思ったのは、設立から20年経ち、年齢も立場も多様化してきた会員の親睦を深めると同時に、今、どの会社でも問題になっている「コミュニケーション」について、体験を通して考えてほしかったから。

参加者7名は、到着後、畳敷きの新キャンピングへ。炊事場もバリアフリーもきれいな布団もある。ロビーに移動すると、大きな窓に広がる緑の木々。まるで、避暑地に来たよう。そこで自己紹介とオリエンテーション。もりもっちゃんの話術にあっという間に緊張がほぐれる。

さあ、いよいよ私たちのために特別に用意された小さなファイヤー場へ。木々に囲まれて輪になって座ると、一気に気分は「キャンプだ、ほい！」

まずは、「自分たちで火をつけてみて」と言われ、皆ささっと木の枝を拾い集め、火をつける。「次は虫眼鏡でつけてみる？理科の先生でも1時間、4時間、あるいはつかないことも…」と言われ、俄然闘志がわきつつ、つくんかな？と不安にも。

2本の虫眼鏡を、「組み合わせれば？」
「いや、やっぱり別々のほうが」と燃やすものを変えたり、角度を変えたり、7人の知恵と力と口を寄せ集め、40分にわたる悪戦苦闘の末、「わー！ ついた！！！」

こんな単純なことで感動するって何年振り？ みんなで課題を解決するって楽しい！

そして、次は、その火を使っただけの夕食作り。ダッジオープンで鳥の丸炊きおかゆと具たつぷ

りポトフと玉ねぎの丸つぼ蒸し。わいわい楽しく作った後はアウトドアのディナー。途中で大きくてきれいなお風呂に入り、キャンピングに移動して、またおしゃべり。

2日目朝食後はチームビルディングを2時間余り。外まで響く笑い声はまるで女学生。「だめじゃない？」「いやこうすれば？」常に前向きに皆が順番にアイデアを出したり、リードしたり、まとめる人が出てきたり。協力することでFWNがパワーアップした感じ！

その後は、本格石窯でピザと栗を焼いていたとき、木の枝でストラップづくり。欠席者の分も作るうという声が自然に。

もりもっちゃんのお話の中で印象に残っているのが、「誤解は当然。理解は偶然」、「聞きやすいように話し、話しやすいように聞く」、「そこに思いやりがあれば、よりいいね」、という言葉。

常に人間関係で悩んでいる私たち。もう少しだけ優しい気持ちで、自然のおおらかな気持ちでいれば、解決できることもあるかも。参加者からは「楽しかった！」「今度はみんなで来たい！」「家族で！」「社員と！」などの声をもらい、美しい環境と訓練された指導のもとで行うキャンプは、企業内の人間関係づくりにも大いに役立つものと確信しました。

今回お世話になった千刈の皆さん、これからもどんどん新たな試みに挑戦してってください！ありがとうございました。



【たき火を囲み、ゆったりと語るひととき】

森の中でチャレンジ「フロンティアキャンプ」

中学生対象の「フロンティアキャンプ2013」(2泊3日)を開催しました。募集開始まもなく定員15名を超え、キャンパー17名(男子15名・女子2名)+中学部教員3名+千刈ナックスタッフ2名の合計22名で無事にやり遂げました。

一般的な子ども向けのキャンプとは異なり「自分のことを自分でする」を徹底的に実施しました。のこぎり・なたを使った「森の開拓」から始まり、テントを立てる場所の確保、そして虫眼鏡を使つての火の確保(写真)、調理まで、本当にみんな頑張っていました。こと火付けに関しては、キャンパー・先生方ともに必死でチャレンジしていましたが、そううまくいきません。

「火がつかないことの深刻さ(ご飯が食べられない)がわかっていないキャンパーたち」と「それをわかっている必死な先生方」の対比がとてもおもしろかったです。「虫眼鏡で火をつけれる」という「情報」を知っている「だけ」というのと、「虫眼鏡で火をつける」ということがどれだけ大変か「想像できる」もしくは「経験して苦労」したことがあるという



のとで、それに向けての意気込みや準備が変わってきますよね。これって、彼ら自身が人生に生きていくときにとても必要な経験だと思うんです。

キャンプ中の振り返りで、「知識:知っている」と「経験:失敗したことがある・できたことがある」というふたつの差が、これほどあるのか。ということをお互いに話をしてくれていました。

結局、大人は1時間半。キャンパーは2時間半で着火!無事、晩御飯を食べられたので本当によかったです。先生方と話していると、1日目は晩御飯を食べられないことを覚悟していただいていたようで、そういう考え方に私達と同じ理解のある先生方と一緒にキャンプができて、これまたしあわせでした。キャンパーのみんなは2泊3日の生活のなかで、さまざまな経験をたくさんしてくれました。トライ&エラー。エラー&エラー。トライ&トライ&エラー。諦める。いや諦めきれない。

「じゃあどうするん?」「自分らで決めや〜」このふたつの言葉をたくさんかけました。

世の中では「知っている」だけでは何もならない「情報」が溢れかえっています。「知っている」=「できた気になっている」のではなく、キャンパーたちが、「知っている」と「実際にできる」というのは、こんなにもズレがあるんだよ。ということを実感できる「場」を提供していけるようにしていきたいと思います。(森本崇資)

千刈キャンプの草木と遊ぶ【ホオノキ】 文と絵:松井鴻さん(草木遊び塾主宰)

秋になると正門からセンターに向かう道路には、大きな葉のホオノキの落葉が見られます。オーク色のこの季節にぴったりの色彩を楽しませてくれます。

実は、ひらひらと落葉して、地面に付くとき100%表面を見せるのです。「草木と遊ぶ」でモービル児童文化賞を受賞した菅野邦夫氏は、「落葉への考察」などと、いきな調べをしたことがある。光合成の役を終え、有終の美を紅葉で飾った木の葉が落葉し地に付くとき、その葉の表面が上をむくか、下をむくかというたわいない調べである。「認めたとはいざさだが、ホオノキが落葉するときは、もうホラ貝のように表を巻いているから裏が地につくにきまっているのである」。遊び心旺盛な菅野氏の植物と向き合う姿がうかがえます。

材は軟らかく、きめがこまやかなので、昔から刀の鞘、版木に、葉は食品を包むのに用いられた生活になくはならないものでした。是非、キャンプ活動のなかに取り入れてもらいた樹木の一つです。

□キツネのお面(右図)

葉の表はオーク色、裏がシルバーブラウン、落ち着いた秋色をしています。この落葉から想像豊かな子どもたちは

キツネのお面を生み出しました。見事としか言いようのないすばらしいものです。お面を被って森の中での鬼ごっこもよし、部屋に飾るのもよし、秋を満喫する落葉あそびです。

なるべく大きな葉の葉先をハサミでV字型に切り取り、次は目、キツネ目になるよう三角形にします。そして、よりリアルにキツネの尖った鼻先を作るのですが、葉柄の中心部からハサミを入れ葉の中程まで切ります。二枚に別れた葉を重ねて鼻の形になるまで絞り込み、小枝で縫い合わせます。

次に、ススキの穂を突き刺しキツネのヒゲに。面の裏に突き出した茎を口で噛むと、顔にピッタリと付着し、森の中を駆け回って遊ぶことができます。



リーダーズボイス 千刈リーダーの声をお届けします

千刈キャンプの最前線に立つリーダーたちはこの森の「顔」とも言えます。リーダーさんたちは関西学院大学学生会宗教総部千刈リーダーズクラブに所属する現役大学生です。このコラムでは、現役リーダーが千刈キャンプやリーダー活動への想いやリーダーならではの話題をお伝えします。トップバッターはクラブの代表(ヘッドチーフ)を務める藤本弘之君(国際学部3年生)です。

「これからのリーダー活動に大切なこと」

千刈リーダーズクラブに入って3年が経ちました。今回は、僕が千刈キャンプで過ごしてきて良かったことを伝えたいです。まず、何よりも「人との出会い」です。千刈に来てくれるお客さん、事務室の方々、そしてリーダーの仲間に出会うことができました。だからこそ、僕は人との関わりや絆を大切にしています。そのために、まずキャンパーさんを大切にすること、仲間を大切にすることを僕は第一に考えて活動しています。なんでも、自分から心を開いて接することで、伝えたい気持ちやキャンプの楽しさを伝えることができます。リーダーをしていると、多くの「選択」を迫られる時があります。そのときに、今何が最優先なのか、何が一番キャンパーさんのためになるのかを考えないといけません。それがキャンパーさんや仲間と過ごしていく中で大切なことではと考えます。

今年は千刈キャンプの運営方式が変わり、食事内容もかわるなどして大きな転換期だと考えています。もちろん、目に見える「変化」はありました。また、目に見えない「変化」というものもあります。僕たちリーダーは「変化」というものについて行かなければなりません。僕たちが、千刈キャンプに来てくださるキャンパーさんをおもてなしする上で自分たちに課されたこと、しなければいけないことは「変化していく中で、今までとこれからを見据え正しい選択」をすることです。

もちろん、千刈キャンプが「変化」をしてもキャンパーさんの目的や楽しみたい！という気持ちは「変化」しません。おもてなしをする僕たちリーダーが「変化」する必要があります。大切にすることはこれからも変わることはないですが、対応の仕方やより千刈キャンプの場内を良くしていくために大切なことを考えてこれからはやっていきます。

最後に、僕が今年出会った人に言われてすごく大事だと思った言葉をみなさんに紹介します。「本質を見て正しい選択をすること」です。一度、みなさんも考えてみてください。僕は、この言葉を投げかけられて改めて今の状態や生活を振り返ってみますと、もっと改善する点があると感じました。今のリーダー活動に満足せず、もっとお客さんと一つになるために僕たちは「変化」をしていきます。これからも、千刈キャンプに来てくださったお客さんが安全に楽しくキャンプ生活を過ごし、大切なことを得てもらえるように頑張ります！！これからも、笑顔で千刈キャンプリーダーは待っています！！



なつの千刈ダイアリー 千刈スタッフ鎌田さんが日々の仕事を通して感じたことなど綴ります



初めて過ごした千刈の夏。私自身一番印象に残っているのは、「フロンティアキャンプ」です。中学部や千里国際の学生を集めて、「全て自分たちでする」をベースに、2泊3日の日程を過ごしました。

はじめは慣れない環境・初対面のひとたちとの時間にぎこちなさも感じた部分がありましたが、虫眼鏡での火起こしにとて苦勞したり、食事の準備・サウ

ナ作り・森の開拓に汗水を流すことで、気がつくとお互いの距離がとても近くなっていったのを覚えています。このキャンプを通して、キャンプ自体の可能性、また千刈の可能性、そして、子どもたちキャンパーの可能性を再認識することができました。

これから実りの秋を迎え、その後冬がやってきます。それぞれの季節にあったキャンプを企画・運営することで、今後もキャンパーのみなさんといっしょに素晴らしい時間を共有できるよう、日々勉強に励んでいきたいと思えます。(鎌田菜摘)

【写真：月に照らされるティピー(フロンティアキャンプ)】

秋冬こそ千刈キャンプは楽しい

秋になり、気温も下がらずいぶんと日中も過ごしやすくなりました。暑くなく、火を囲んでゆったりとした時間を過ごすにはベストシーズンです。また共用空間の使い方の自由度は夏以上。ゼミやクラブ、研修やレクリエーションなどで是非お越しください。年末までの空室状況や主な事業をお知らせします(詳細は千刈キャンプ事務室まで)

○ 土日・祝日の空室情報 (2013年10月15日現在利用可能な新キャンビン数)

11月 2日(土)～4日(祝) 3棟 / 16日(土)～17日(日) 5棟 / 23日(祝)～24日(日) 10棟

12月 7日(土)～8日(日)朝 10棟 / 21日(土)～23日(祝) 10棟

○ 年内の主な事業(2013年10月現在の予定)

事業名	日程	内容
オータムフェスティバル	2013年11月23日(土)	千刈リーダーOBOGのホームカミングデー
リトリート at 千刈	2013年11月30日(土) ～12月1日(日)	関西学院に連なる人々を対象にした1泊2日のリトリート。関西学院宗教活動委員会の主催。
冬のぼかぼかキャンプ	2013年12月 8日(日)	小学生対象のディキャンプ。寒さにまげずに一日たっぶりリーダーと遊びます。
たき火キャンプ	2013年12月14日(土) ～15日(日)	たき火カフェのお泊りキャンプ。限定3家族と千刈スタッフでたき火三昧。宿泊は新キャンビンです。

【ニュース】新企画 たき火カフェが大好評です

千刈の魅力のひとつは「たき火」を思う存分できること。そばにいと時間がゆったり過ぎ、空気もやわらかく不思議と退屈することってないんですね。

普段の生活では少なくなった「ホンモノの火」を囲んで料理をしながら、ゆったりと家族や仲間と森の時間を過ごす日帰りプログラム「たき火カフェ」が好評を頂いています。日時等、詳しくは事務室までお問い合わせください。



ここも関学 千刈キャンプは森のキャンパスです

私たちが目指すのは「森のキャンパス」です。約8万㎡の里山の自然と約150人までの宿泊研修機能に加え、指導スタッフが常駐するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持っているのが千刈キャンプの特色のひとつです。自然の中で時間に縛られない生活空間を共有することで、研究はもちろん、学生とのコミュニケーションも深まるでしょう。また、環境やリーダーシップなど実践的な教育活動の展開が可能で、学内だけでなく学外にも開かれた場として、教会・幼稚園・学校・生涯学習など一般の団体グループの方々にもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

関西学院千刈キャンプ 〒669-1507 兵庫県三田市香下1817-1

電話 079(563)5233 FAX 079(563)5235

Email: campsengari@kwansei.ac.jp

website http://www.kwansei.ac.jp/f_sengari/index.html

facebook <http://www.facebook.com/CampSengari>

つぶゆき おかげ様で、夏を大きな事故なく終えることができました。感謝です。一方で宿題も多くなりました。皆さまの叱咤激励を励みに、今あるものをどう活かすかを考える秋の日々です。(益)